

# 業務の新聞

第37号 平成31年 2月 8日

## 電気部門の変革 2022

2月6日、「電気部門の変革 2022について」の提案を支社より受けました。今施策の対象職場は、東京電車線技術センター、東京配電技術センター、東京変電技術センター、東京信号技術センター、品川信号技術センター、東京通信技術センター、東京新幹線信号通信技術センターとなります。

提案は、『変革 2027に掲げたビジョンを具現化するため』に、最新技術の導入を積極的に行い「設備のシステムチェンジ」「スマートメンテナンス」「工事の機械化・効率化」を三本の柱にメンテナンス業務を変革していくとしています。

また、「新幹線を専門にメンテナンスする組織」を構築するとしています。

各職場では「工事設計グループと保全グループの再編」などの準備が進められています。施策実施は2019年4月1日となっています。

実業務、労働環境、教育、制度・システムの見直し、グループ会社・パートナー会社の労働環境・教育などなど施策実施と“現実”に存在する問題点を職場から抽出し解決する努力をしなければ、『電気部門の変革 2022』も『変革 2027』もその意味を失います。

## 2/24 2019 春闘集会

2019年2月24日に、本部は2019春闘集会を開催します！

仲間たち一人ひとりの『声』を労働組合のひとつの『要求』に創りあげ、その実現に向けてなかまたちの力をを集め示す場になります。

最大結集で行きましょう!!!

## TK 関係施策の提案

2月6日、「東京総合車両センター業務量などについて」の提案を受けました。

2019年度の東京総合車両センターにおける業務内容が示されました。

提案された施策は、「一部車両の定期検査」「車両改造工事」などを“他の総合車両センター”で施工する『業務量調整』を行う。また、委託範囲の変更をしています。

東京総合車両センターでは、この間「業務の委託」などが進み“ひとつの職場”において様々な“会社”が存在し、首都圏における安全かつ快適な車両に提供するために奮闘しています。

施策は4月1日実施とされています。

時間はありませんが関係職場の皆さんと連携を取り、JR本体にとどまらず、ともに安全かつ快適な車両提供するために奮闘している方々の問題の解決・要求実現のために取り組みを進めます。

今提案の中に『乗務員室防犯カメラ整備』という項目がありました。この項目を目にしたとき「ほんとなのか？」「どこまでもやるのか？」「社員を信じられないのか？」…残念な思いと“怒り”湧き上がってきました。

「監視」から何を創造しようとしているのか？

「職場管理」「社員管理」が出来ていないことへの対抗策なのか？

会社経営陣が何を考えているのかわかりません。しかし“被写体”となる私たちにとっては、良い気分ではありません。

支社経営側とこれからも真摯に向かい合い、この会社・この職場を良くするために大いに論じて行きます。